

2020年度ロジスティクスシステム研究会 合宿会合を開催

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会(JILS)が主催するロジスティクスシステム研究会では、2020年11月に2日間にわたる合宿会合を開催致しました。

24社26名の研究会メンバーが出席し、以下の目的に従い、活発な議論が交わされました。

- 1) 日常の業務を離れ、他社・異業種の企業・事業をビジネスモデルやサプライチェーンの視点から俯瞰、比較し、改めて自身の業務を振り返ってみる。
- 2) コロナ禍においても好業績を収めている企業のビジネスモデルを「不易流行」の観点で捉える。
- 3) 自身の事業、業務を変革するための視点・視野・視座を高め、広める。

なお、例年の合宿会合は宿泊を伴う形式としておりましたが、2020年度については新型コロナウイルス感染防止の観点から、宿泊を伴わない形式での開催と致しました。

詳細につきましては、以下にご報告致します。

※ロジスティクスシステム研究会について

1) ロジスティクスシステム研究会とは

ロジスティクスを取り巻くビジネス環境の変化や各種課題を捉えるべく、多岐にわたる企業からの参加者同士で意見交換を行い、企業・団体におけるロジスティクス関連活動の問題発見と解決のヒント取得を目的とする研究会です。

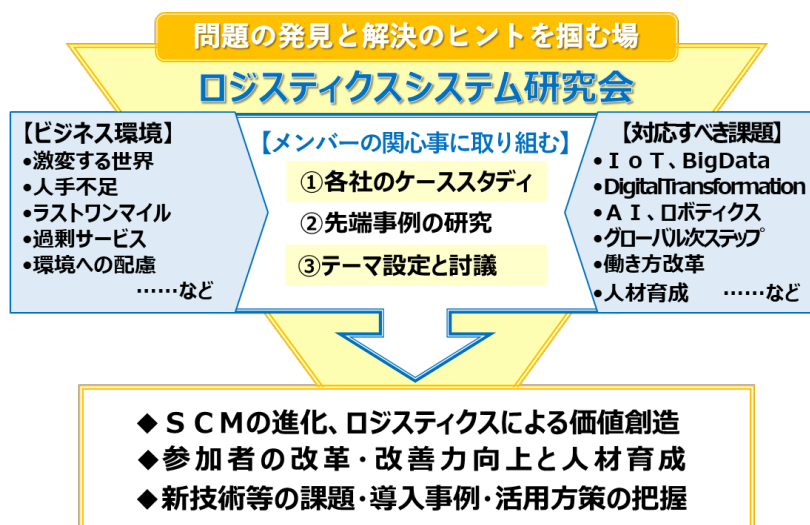


図. ロジスティクスシステム研究会の活動イメージ

2) 2020年度の本研究会における視点

(1) 「モデル思考」の実践

- ① 各種の取組み(事例)を俯瞰して捉える。
- ② 各種の取組み(事例)の背景、真意・目的、構成要素、を深く考える。

(2) 「不確実性」への対応の追求

- ① 「リスク」(過去の事象からの推計、定量的評価等による想定が可能)とは異なる事象への対応方法を考察する。
- ② 「不確実性」への対応は演繹的な思考・アプローチを伴う場合が多いことから、非連続的な「イノベーション」への到達の可能性を模索する。

1. 開催概要

- 1) 日 時 1 日目…2020 年 11 月 13 日(金)10:00～17:00
2 日目…2020 年 11 月 14 日(土)10:00～16:00
- 2) 会 場 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 本部会議室
- 3) 参加企業 愛知海運、アセットソリューション、アビーム コンサルティング、SBSリコーロジスティクス、カリモク家具、GROUND、山九、サンリツ、ジョーンズラングラサール、西濃運輸、大成建設、帝人、東芝デジタルソリューションズ、トラフィックレンタリース、日本通運、バンダイロジパル、ハンナ、日野自動車、ブラザーロジテック、古野電気、ベネッセコーポレーション、ポリプラスチックス、マーシュブローカージャパン、ラストワンマイルソリューション
(24 社 26 名、社名 50 音順)

2. 2020 年度合宿会合の目的

- 1) 日常の業務を離れ、他社・異業種の企業・事業をビジネスモデルやサプライチェーンの視点から俯瞰、比較し、改めて自身の業務を振り返ってみる。
- 2) コロナ禍においても好業績を収めている企業のビジネスモデルを「不易流行」の観点で捉える。
 - (1) 不易:「本質や軸(強み)」となっているものは何か
 - (2) 流行:「変化への対応」として適用しているものは何か(ヒト・モノ・カネ・情報・その他)
 - (3) 上記をサプライチェーン構造や物流に落とし込むと、どのような特徴がみられるか
- 3) 自身の事業、業務を変革するための視点・視野・視座を高め、広める。

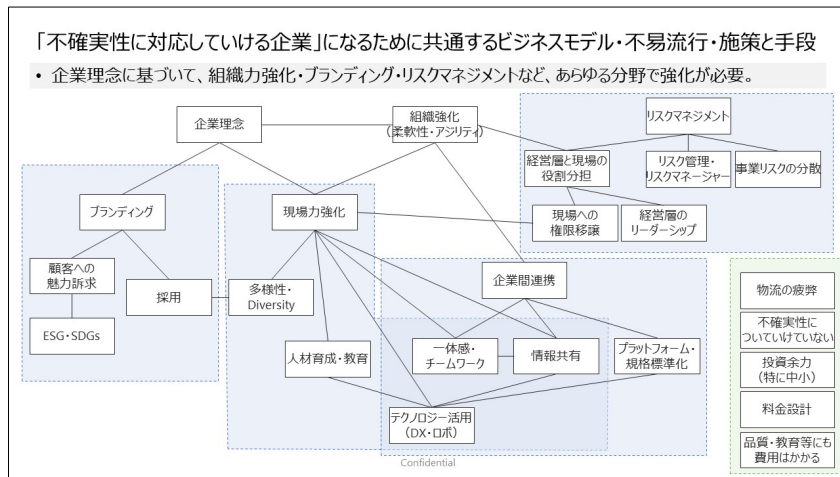
3. 2020 年度合宿会合の流れ

- 1) 事前準備
 - (1) 参加メンバーごとに対象とする企業を選定し、研究を行う。
 - (2) 参加メンバーを研究対象とした企業の業種別のグループに分け、気づき等を共有する。
- 2) 合宿当日
 - (1) 事前準備における企業研究について、各グループ内での気づきを発表する。(1 日目前半)
 - (2) 研究対象企業の業種がばらけるようにグループを再編成し、各グループでの気づきを共有した上で、研究対象企業の不易流行のポイントを議論する。(1 日目後半～2 日目前半)
 - (3) 上記グループでの議論結果を資料にまとめ、発表・議論を行う。(2 日目後半)

< 議論・発表の様子 >



< 発表資料(2日目後半)の例 >



- 定義
 - 「不易」…「流行」に対して、ぶれない軸（存在意義）
 - 「流行」…世の中の欲求の変化
 - 「顧客」…自社の製品やサービスを直接購入する相手方
 - マズローの欲求（世の中の欲求の根底にあるサイクル）
 1. 生理的欲求 生命活動を維持するために不可欠な、必要最低限の欲求
 2. 安全の欲求 身体的に安全でかつ経済的にも安定した環境で暮らしたいという欲求
 3. 社会的欲求 社会集団に所属して安心感を得たいという欲求
 4. 承認欲求 集団の中で高く評価されたい自分の能力を認められたいという欲求
 5. 自己実現の欲求 自分にしかできないことを成し遂げたい、自分らしく生きていきたいという欲求
- To顧客：世の中の欲求を適切なタイミングで満たす
 To社内：会社の存在意義を共有し、共感を得る

4. 参加者のご感想

- 本質を捉えることの重要性を再認識することができた。(物流)
- 鳥瞰的なビジネス構造の仕組みや各企業の戦略的な要素を、多様な業種間で比較しながら学ぶことができた。(サービス)
- 物流を考えるにあたって、経営的観点が肝になることを再認識した。(建設)
- 今後の自社の組織や事業のあり方を考えていく上で活かせる内容であった。(電気機器)
- 自社が出来ていることと、出来ていないことを気付かされた。(物流)
- 企業の不易(理念や存在理由)を組織の末端まで浸透させ、その不易に基づいて行動する現場力の重要性を感じた。(物流)

※カッコ内は各参加者のご所属先企業の業種です。

5. おわりに

2020 年度の合宿は、コロナ禍の中で、業績を向上・維持、同業より優位にしている企業をとりあげ、その要因、事業の構造やモデルを研究し、討議した。

取り上げられた企業事例は、多岐の業種、業態に渡り、日頃分析例の少ないものも多く、参加メンバーの独特の目線での研究は非常に興味深いものであり、討議も相互に刺激のあるものとなった。

それゆえ内容を詳しく述べるには紙面がかなり要するため、大まかなまとめをする。

取り上げられた企業の“優位性の要因”は、「企業理念+戦略+オペレーションの独自性、多様性」によって形成されている。企業理念は、どの企業にもあるものであろうが、総花的なものでなく、“競争を生き抜くための必然”としておかれていて、“その徹底があらゆる事業の活動や人の行動への浸透”等が分析されている。戦略、オペレーションについても面白い分析および見解が多々示され、各人が自社、自分事として改革、改善を考えるうえでの“大いなる気づき”となったことが、事後のアンケート結果にも如実に表れていた。その結果、合宿だけの消化では満足せず、更に研究を続けたい希望が多く出た。

2021 年度もそうした合宿と定例の研究会が行われるよう、企画委員会、幹事、事務局共々進めていく所存であり、多くの方にご参加いただき、不確実性が高まる中でも“共に切磋琢磨できる”ことを祈念し、結びとしたい。

<主査> 経営・SCM コンサルタント/元コマツ物流 社長 田村 耕司 氏

以上